



# 教会だより

〒400-0032 山梨県甲府市中央2-7-10  
 Tel 055-237-2531 Fax 055-237-2507  
<http://catholic-kofu.com>  
 発行 甲府カトリック教会広報委員会

## 神父のつぶやき

カトリック甲府・塩山教会  
 主任司祭 白木 信一

共同宣教司牧体制が実施されて10年以上が経つ。共同は「協働」の意味を含んでいる。2年前の2018年8月に、『わたしたちがめざしている共同宣教司牧とは』の報告書を刊行したチーム名は、「カトリック横浜司教区共同（協働）宣教司牧推進チーム」であったが、そこにもこのことが示されている。

何ゆえにこの体制を実施していくのかは、この報告書だけでなくそれ以前に出された教書『共同宣教司牧に向けた ---- 』、また信徒養成講座や地区研修会を通して学んできた。そこで再び確認するなら、「横浜教区がめざす教会の姿は『交わり』という言葉に集約されるが、教会がキリストから託された使命を果たすために、これは手段として必要なものである。『共同宣教司牧』や『三部門』は『交わり』が実現する場、あるいは手段と理解することができる」（先の報告書の「はじめに」の要約）ということである。



梅村司教様が最初の司牧書簡『交わりとしての教会をめざして』で司牧指針を示されたが、その中で交わりには三つの次元があることを説明されている。その一つは「すべての信者の交わり」についてであったが、その中で「洗礼と堅信の秘跡によって、すべてのキリスト信者はキリストの祭司職、預言職、王職にあずかる者となり、教会の使命を互いに協働して果たします」と述べられている。

ずっと感じていることなのだが、この協働という意識なり認識なりがまだ十分ではないということである。信徒間の協働の意識についての言い方を変えると、教会に宗教サービスをはじめとした様々なサービスを求めるが、教会のメンバーの一人としてその使命（宣教）を果たしていくとの意識は薄いということである。もちろん高い意識を持っておられる方もあるが、この意識が全体的に薄ければ、教会の使命を果たすという同じ目的に向かって協働することは、なかなかかどらないということになる。

司教様が横浜教区報51号で、「共同宣教司牧」について「信徒・修道者・司祭が共同の責任があるが、同等の責任や役割があるわけではない」ことを示されている。そのこともあってか、横浜教区における三者（信徒、修道者、司祭）の協働は一步ずつ進んでいるように思われる。だが、小教区における信徒間での協働はどうなのだろう。いまだに、共同宣教司牧とは、「信徒、修道者、司祭が同等の責任や役割がある」と理解されているのだろうか。それで、「私には無理だな」と感じている方が多いのだろうか。そのため協働がはかどっていかない状況になっているのかと、思ってしまう。

横浜教区がめざしている『交わりとしての教会』についての理解をより良く理解し、その実現に向けての協働が活性化していくことを願うところである。

## お知らせ（9月）

「すべてのいのちを守るための月間」についてのお知らせ

日本司教団は、教皇フランシスコの訪日にこたえて、毎年9月1日～10月4日を「すべてのいのちを守るための月間」と定め、今年から実施することになりました。具体的な取り組みの一つとして、期間中、『すべてのいのちを守るためのキリスト者の祈り』を唱えることにし、その祈りのカードが作成されました（ホームページからダウンロードすることもできます）。教会にいらした折にそのカードをお取りいただき、それぞれにお祈りください。

また、毎年9月第一日曜日（被造物を大切に作る世界祈願日）に、全国で一斉に祈り、各共同体単位で具体的な行動を起こす取り組みが呼びかけられています。横浜教区がどのように取り組むかの指示はまだ出されていませんが、とりあえず当小教区においては、ミサ前に「召命の祈り」と共にこの祈りをささげることになりました。

この月間の取り組みについての詳しい情報は「カトリック中央協議会」のホームページをご覧ください。尚、教区から何らかの指導があった際にはその都度お知らせします。

（主任司祭より）

1. 9月20日（日）に予定しておりました敬老の集いは、中止いたします。  
該当する方々には、9月中の各ブロックのミサの際に神父様より祝福と記念品の贈呈がございます。（欠席なされた方には、追って郵送いたします。）
2. 教会委員会 9月 6日（日）11：30～サンタルチア講堂行います。
3. きずなの会 9月 9日（水） 9：00～センターホールで行います
4. 典礼委員会 9月 19日（土） 9：00～センターホールで行います
5. 地域福祉委員会 9月 27日（日）13：00～15：00 サンタルチア講堂行います。
6. 回勅回勅「ラウダート・シ」をめぐる特別年へのご協力をお願い  
フランシスコ教皇様は、地球と貧しい人々の叫びへの関心を喚起するために回勅「ラウダート・シ」を出されました。これに関連して、2020年5月24日から来年2021年5月24日までを、回勅「ラウダート・シ」の特別年に定め、わたしたちの「共通の家」と最も弱い立場にある兄弟姉妹たちの保護に取り組むよう呼びかけられた。  
私達は、この人間の仕業が地球環境を破壊し、多くの尊い命を奪ったことへの回心と償いとして次のことを行いたいと思いますのでご協力をお願い致します。

- ・特別年の2021年5月4日までを償いの期間として。教皇様のお勧めされた祈りと償いの献金を行います。

(献金の方法)

① 主日のミサの中で「**ラウダート・シ特別献金**」と表示された献金箱に献金する。(当日のミサのブロック長はお手数でも主日の献金とともに白木神父様にお渡しください。)

②指定銀行口座への振り込み

銀行口座

山梨中央銀行 本店営業部 普通預金 188674

(宗)カトリック横浜司教区甲府カトリック教会

代表 白木信一

通信欄に「**ラウダート・シ特別献金**」とご記入くださいますようお願い致します。

- ・献金先：国内外で不幸にして甚大な災害が発生した地域の教会等献金受付機関にお贈り致します。

(8月末までの献金は、熊本集中豪雨被災者に贈りました。)

関係団体などからのお知らせ

(1)NPO法人こどもサポートやまなし

①運営委員会

9月15日(火)18時30分より、サンタルチア講堂で行います。

②学習会

今月の学習会は、9月13日(日)及び9月27日(日)の13時30分より山梨カトリック福祉センターで行います。

なお、学習会参加の子どもさんが増加して、送迎ボランティアが不足しております。自家用車をお持ちの方でご協力いただける方は、池田まゆみ又は木村輝三までご連絡をお願い致します。(送迎ボランティア保険には、当法人の負担で加入致します。)

③家電製品等のご寄付のお願い

残念なことですが最近 コロナ問題等から生活が困窮されている母子が増加しております。アパートなどでの生活を始めるにあたり家電製品(冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、都市ガスレンジ、テレビ、エアコン等)が不足して困っております。皆様のご家庭又はお知り合いの方で不要なものをお持ちの方がございましたら、ご寄付頂けたらうれしいです。(担当：木村輝三)

## 9月・10月 主日ミサ 当該ブロック表

9月				
年間第23主日	9月 6日(日)	10:30~	サンタル チア講堂	西ブロック
年間第24主日	9月13日(日)	10:30~	サンタル チア講堂	東・南ブロック
年間第25主日	9月20日(日)	10:30~	サンタル チア講堂	山城・峡南ブロック
年間第26主日	9月27日(日)	10:30~	サンタル チア講堂	中央・北ブロック
10月				
年間第27主日	10月 4日(日)	10:30~	サンタル チア講堂	西ブロック
年間第28主日	10月11日(日)	10:30~	サンタル チア講堂	東・南ブロック
年間第29主日	10月18日(日)	10:30~	サンタル チア講堂	山城・峡南ブロック
年間第30主日	10月25日(日)	10:30~	サンタル チア講堂	中央・北ブロック

りゆうい てん  
・留意すべき点

- かなら ちゃくよう しょうどく  
・必ずマスクを着用してください・アルコールによる消毒を行います

・その他

- さんかとうじつ たいおん いじょう ばあい さんか ひか  
・参加当日の体温が37℃以上である場合は参加をお控えください
- けんきん けんきんばこ い  
・ミサ献金は、献金箱に入れてください
- げつていけんきん しょぞく ちょう わた  
・月定献金は、所属のブロック長にお渡しください。

※ しんがた かんせんしょうかくだいぼうし たいさく みな  
※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策ですので皆さまの

りかい きょうりよく ねが  
ご理解とご協力をお願いいたします。

## すべてのいのちを守るためのキリスト者の祈り

宇宙万物の造り主である神よ、  
あなたはお造りになったすべてのものを  
ご自分の優しさで包んでくださいます。

わたしたちが傷つけてしまった地球と、  
この世界で見捨てられ、忘れ去られた人々の叫びに  
気づくことができるよう、  
1人ひとりの心を照らしてください。

無関心を遠ざけ、  
貧しい人や弱い人を支え、  
ともに暮らす家である地球を大切にできるよう、  
わたしたちの役割を示してください。

すべてのいのちを守るため、  
よりよい未来をひらくために、  
聖霊の力と光でわたしたちをとらえ、  
あなたの愛の道具として遣わしてください。

すべての被造物とともに  
あなたを賛美することができますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。

アーメン。

(2020年5月8日 日本カトリック司教協議会認可)

